

## 発見！ 若手技能者

藤田晴樹さん（群馬・有フジケン勤務）

# コンピューター知識と木工技能の融合目指す

藤田晴樹さんは愛媛県の建具店に生まれ育ち、藤田さん自身も事業所の三代目となるべく群馬県の建具店で修行している。年齢は22歳。実家は祖父の代から建具の仕事を開始。四国にある高等専門学校（以下、高

専）を卒業後、進路を決めるに当たり、実家の事業を継ぐことを決断した。現在は群馬県高崎市の有フジケンに勤務する傍ら、月に一度、同じく高崎市内の高田木工で開かれる勉強会にて技能の修練に励んでいる。

群馬に来てから2年が経過。一人暮らしなので生活も自分の力で面倒を見なければならぬ。炊事も洗濯も自分でこなしながら、研鑽の日々を送る。中学から学寮生活をしてきたため、身の回りの雑事を自分ですることに慣れているが、炊事は修行に来てから始めたので難儀に思うときもあるという。まずは建具製作の技能検定2級合格を目指し、その後は山形県で開催される技能五輪全国大会への出場を視野に入れる。

群馬まで修行に来た経緯を藤田さんは次のように語る。

「父親が愛媛の建具店の経営者として、店は地元でも評判の良い事業所という認識があります。その父でも治具の作り方などに迷うことがあり、付き合ひのある工具販売店を通じて高田社長に相談させてもらった

事を選ぶに当たり、修行先の相談にも乗っていたいただきました」

事業所の初代経営者である祖父からも「修行先は遠くでやった方がいい」と背を押され、県外それも遠く離れた関東での修行を決意した。

藤田さんを手仕事の技能面で指導する高田年三社長は受け入れた理由を「藤田君の実家を3年前に訪ねたが、昭和の懐かしい雰囲気が残る街であり、近隣住民との関係も良好な、人間関係の暖かさが感じられる土地だった。こういう環境で育ったならば、真つすぐな青年だろうと感じ、群馬の同業者に紹介して修行させることになった」と語り、朴訥な人柄を気に入ったことだった。

高専ではコンピューターの電子回路設計やプログラミングを専攻。このため木工の知識や技術は初心者から始めることになった。最初は建具の構造がどうなのかも知らず、覚えることの多さに苦心したが、仕事や勉強を重ねていくうちに建具の知識と技術が徐々に身についてきた。現在、事業所ではフラッシュドアなどの製作を行い、月に一度の勉強会で鉋、鑿、胴付鉋など手道具での製作



藤田晴樹さん